

花や手芸小物でアスパルに彩り添える

みやうち よしこ
宮内 淑子 さん



PROFILE

みやうち よしこ(中町・66)
平成5年の市立図書館開館から今日まで、ボランティアで生け花と手芸小物を提供する。8月25日、その貢献に対し御前崎市感謝状が贈られた。

長年の貢献に市感謝状

市立図書館アスパルが7月24日、開館から25周年を迎えた。利用者は、カウンターの壁に温かな手芸小物を見かけたことがあるかもしれない。開館以来、ボランティアでそれら手芸小物や生け花を提供し続けるのは宮内淑子さん。その貢献に対し、25周年記念式典の中で、御前崎市感謝状が贈られた。

感謝状を手にした時の気持ちを尋ねると「このようなものを私がいただいてしまっているの？と感じた」と謙虚だ。

無機質な空間に彩りを

25年前、近所に出来上がった立派な図書館に感動し、通うようになった宮内さん。すると、本だけがある無機質な空間に違和感を覚えたと言ふ。「初めだから仕方ないけど：他のまちの図書館のように季節感があれば」。そう思っで始めたのが生け花や手芸小物の提供だった。

「家事などの空いた時間に少しずつ進めている。母や友人に教わることもあったが、あとはアスパルで本を借りて

学んだもの」。ミシンにはあまり頼らず、自分の手でやっているのだそう。提供した作品の数は「はつきりわからないが、100点近くあるのでは」とのこと。作品には以前着ていた着物や、ご主人のネクタイなどが使われている。作成には苦労もあるかと思いきや、「作るのが好きで勝手にやっている。図書館にあれば多くの人に見てもらえる。それが張り合い」と楽しげだ。

今後も見てもらいたい

図書館職員から「来館した人が『かわいい』もらってもいい?」と言っていたよと聞く、それが一番うれしいことだという宮内さん。「自分の思い出が形を変えて残り、みんなに見てもらえるのがうれしい」と話す。

今後の創作についても「感謝状が励みになった。いただいた以上、これからも続けていきたい」と意欲をみせる。

作品はクリスマスや七五三など季節に合わせたものほか、絵本の場面を再現したものもある。図書館へ行った際には、そこにも楽しみを見つけてはいかがだろうか。